



CSAジャパン サミット2023

**DX時代のビジネス課題を  
解決できるクラウド最適化へ。  
未来の動向を促進させるRackspace**

---

アイレット株式会社

**後藤 和貴**

執行役員 / エバンジェリスト

**Sean Ferguson**

Rackspace事業部 事業部長



2023年5月18日

# 自己紹介

ごとう かずたか  
**後藤 和貴**



アイレット株式会社  
執行役員 / エバンジェリスト

## 業務経歴

- クラウド事業立ち上げ
- エバンジェリスト、パートナーアライアンス、マーケティング担当

## 職歴

- 日本オラクル→米国オラクル本社（ソフトウェアエンジニア）
- ウェブデザイン会社（技術チーム立ち上げ、プロジェクトマネジメント、執行役員）
- フリーランス（テクニカルディレクター）

ショーン・ファーガソン  
**Sean Ferguson**



アイレット株式会社  
Rackspace事業部 事業部長

## 職歴

- セキュリティ会社 3カ国法人（日・韓・米）の統括 / 韓・米法人の立ち上げ
- Fortune500のテック系グローバル企業の日本国内進出を支援
- Rackspace事業部 事業部長

## 経歴

- 日本育ちの英日バイリンガル、バイカルチャーな江戸っ子気質のアメリカ籍
- 韓国、アメリカの現地法人を一から立ち上げ、早期に黒字化し軌道に載せる
- セキュリティの分野で培った経験を生かし、クラウド業界で奮闘中

# 事業概要・サービス提供範囲

アイレットは、クラウドの導入設計から構築・保守・運用をトータルでサポートする「cloudpack」および「Rackspace」とシステム設計・開発・デザインをワンストップで行う「開発」を提供しています。

開発  
開発  
デザイン

**iret**

- ・アプリケーション開発
- ・サーバレス開発
- ・デザイン/Webシステム開発
- ・ゲーム開発
- ・ITコンサルティング

インフラ  
構築  
MSP※

**rackspace** technology. powered by iret

**aws** **Microsoft Azure**

AWS : 2020年開始  
KCPS(RPC-Vベアメタル) : 2020年開始

- ・世界中でのサービス提供
- ・洗練されたツールによるMSP
- ・日本語・英語サポート

**cloudpack**

**aws**

**Google Cloud**

AWS : 2010年開始  
Google Cloud : 2019年開始

- ・AWS取扱量は毎年大幅増
- ・日本トップクラスの取扱量

クラウド

AWS/Google Cloud/  
Azure/Oracle

**aws** **Google Cloud**

**Microsoft Azure** **Oracle Cloud Infrastructure**

ビッグデータ  
DMP、LPO

株式会社SiNCE

**SiNCE**

IoT

株式会社ソラコム

**SORACOM**

セキュリティ

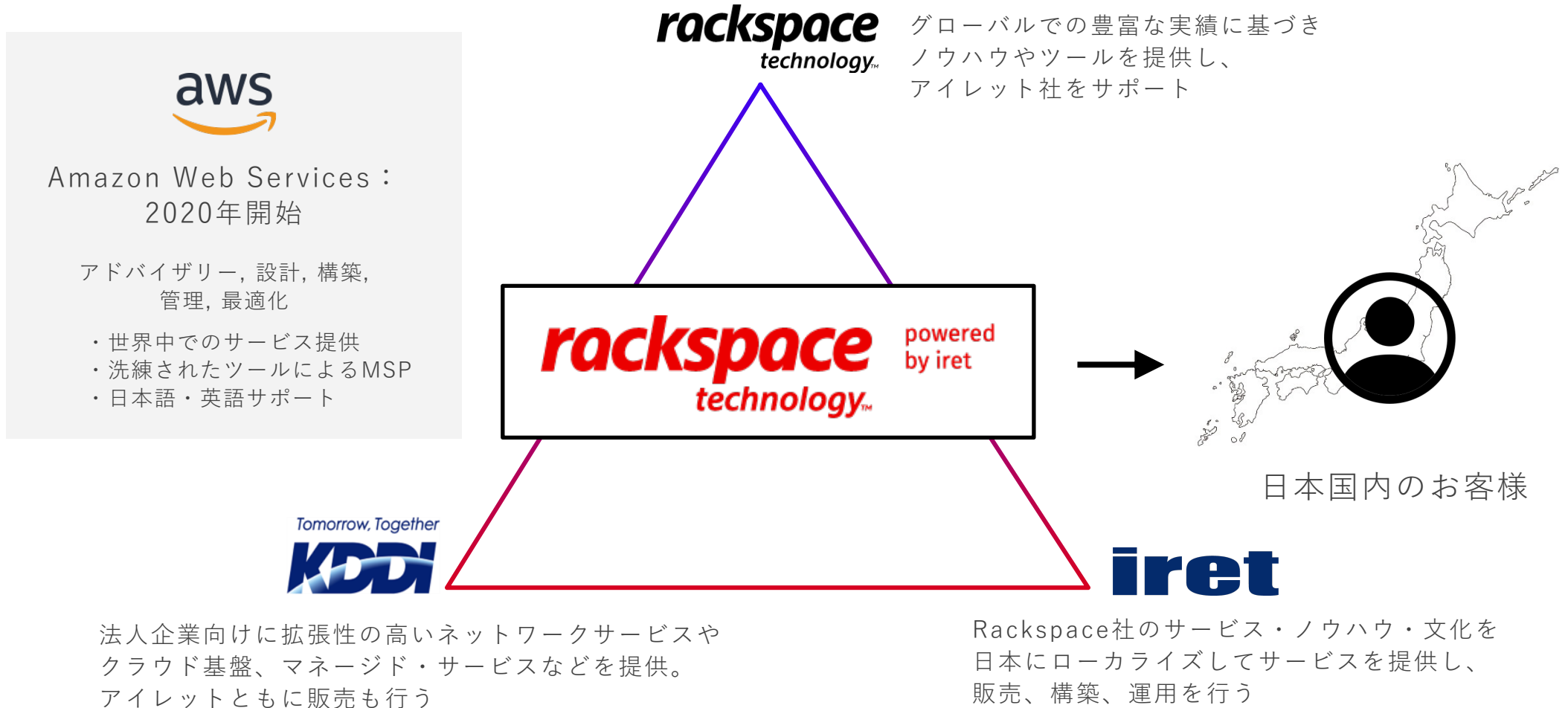
トレンドマイクロ  
株式会社

**TREND MICRO**

※MSP：マネージドサービスプロバイダー/監視運用保守

# 日本国内のRackspaceとは

AWSクラウドのソリューションをグローバル規模でサポートする米国のRackspace Technology社のマネージドサービスを2019年よりKDDIとアイレットの3社で、日本国内にローカライズしてサービス提供開始





# グローバル専門家

全世界に約40箇所のサービス拠点、120カ国で12万5000社の実績。  
日本でもグローバルのエンジニアの20年間超のノウハウを受けることが可能



## AMERICAS

19  
拠点数

4,500名  
従業員

SOC  
セキュリティ  
オペレーション  
センター

## EMEA

12  
拠点数

1,100名  
従業員

SOC  
セキュリティ  
オペレーション  
センター

## APAC

9  
拠点数

1,200名  
従業員

## GLOBALLY

40  
拠点数

6,800名  
従業員

2  
SOCs

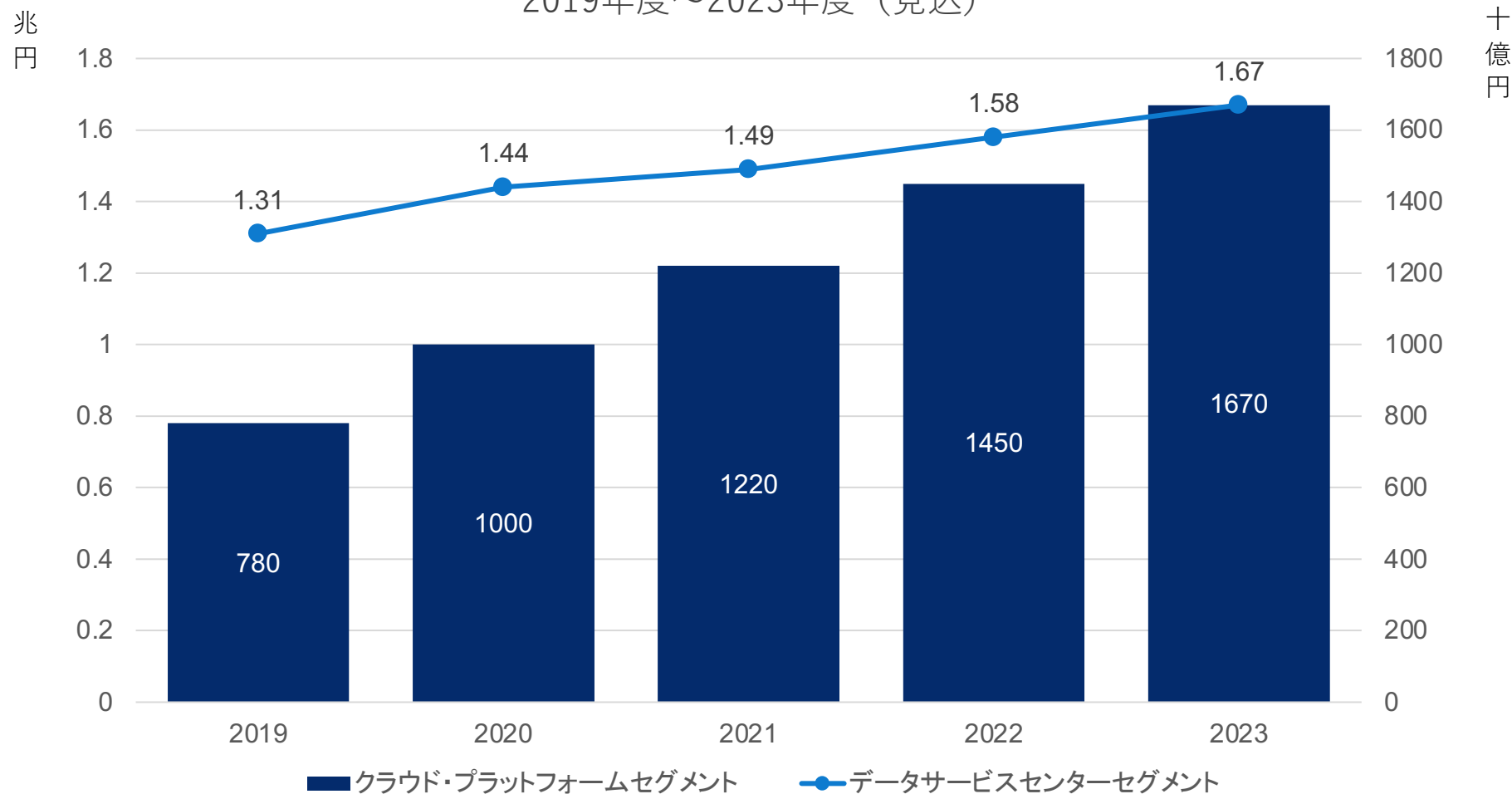
世界120カ国で  
12万5千社のお客様

DX時代のビジネス課題を  
解決できるクラウド最適化へ。

# 日本のクラウド化の今

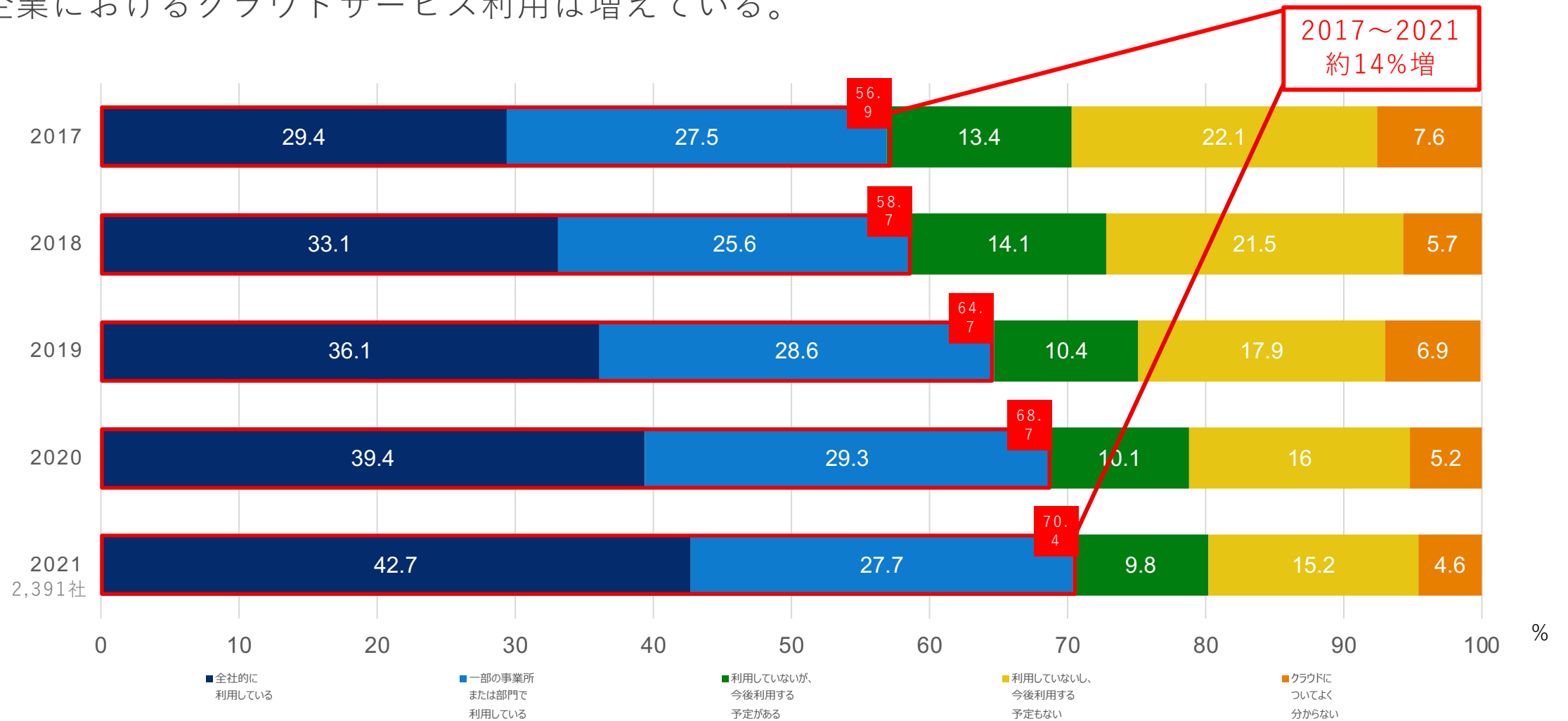
国内ではCSP（クラウド・ソリューション・プロバイダ）の市場シェアが拡大中。

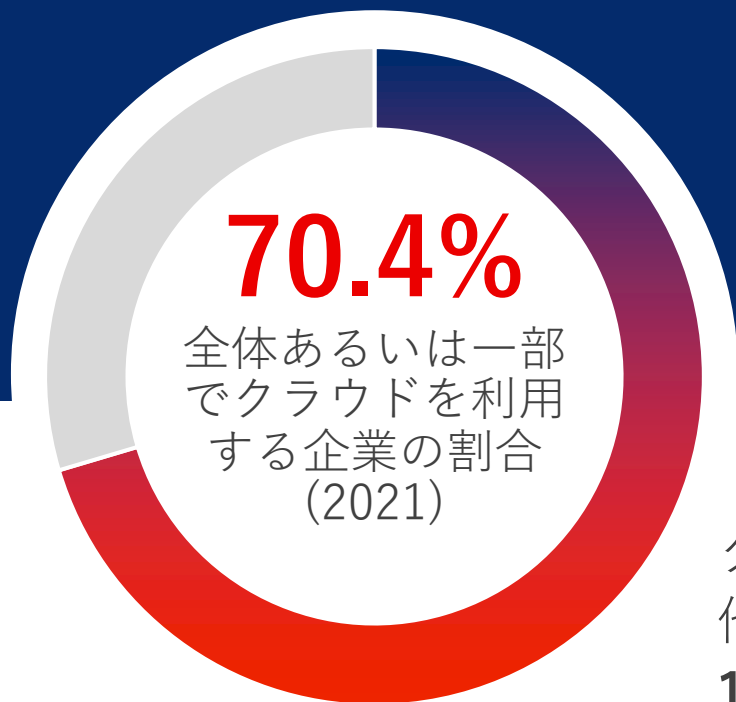
日本のクラウド市場・データセンターサービス分野の売上高  
2019年度～2023年度（見込）



# 日本のクラウド化の今

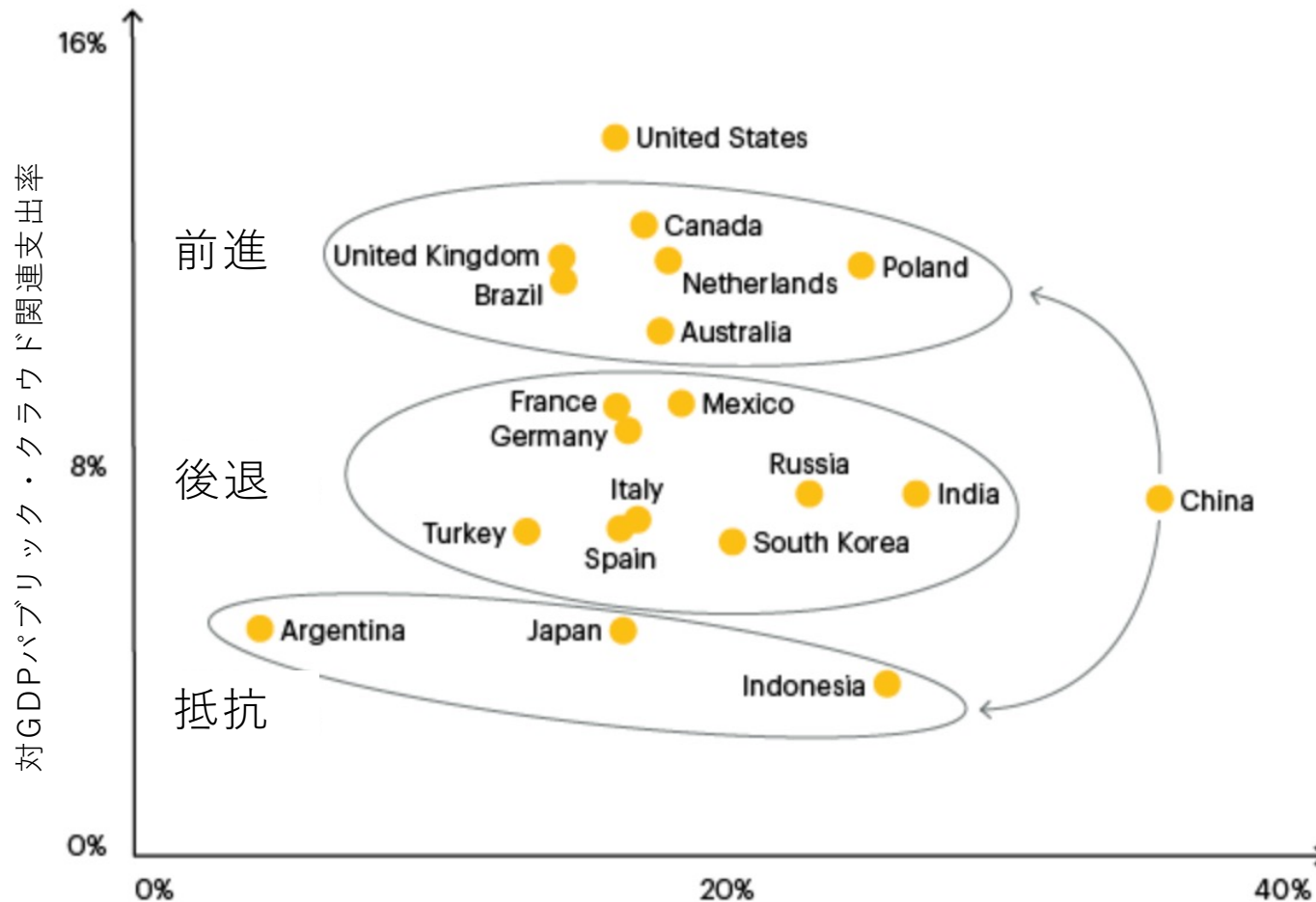
企業におけるクラウドサービス利用は増えている。





クラウドの導入は進みつつあるものの、他の主要先進国における高いクラウド普及率とは対照的で、10年前、2012年に米国で達成された70.6%よりも低い。

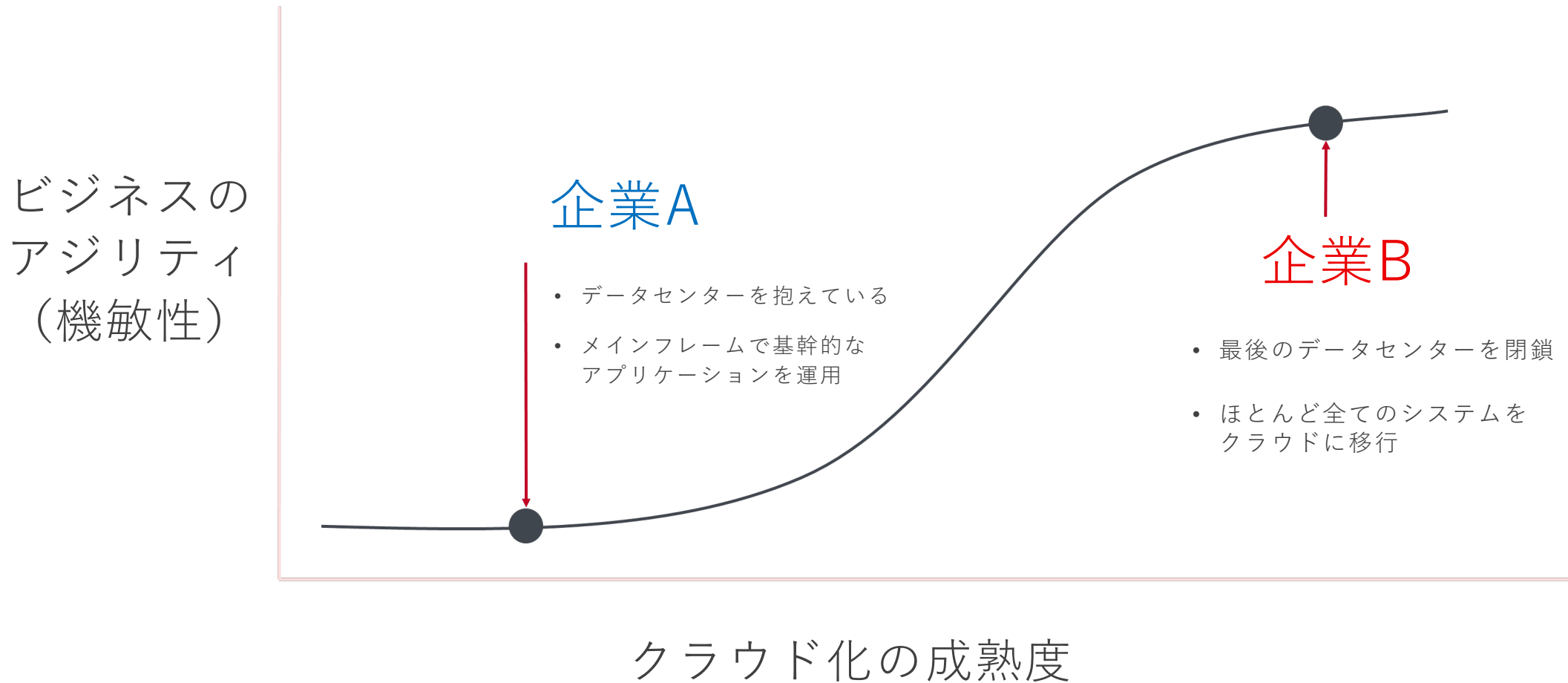
# 世界と日本のクラウド最新情勢



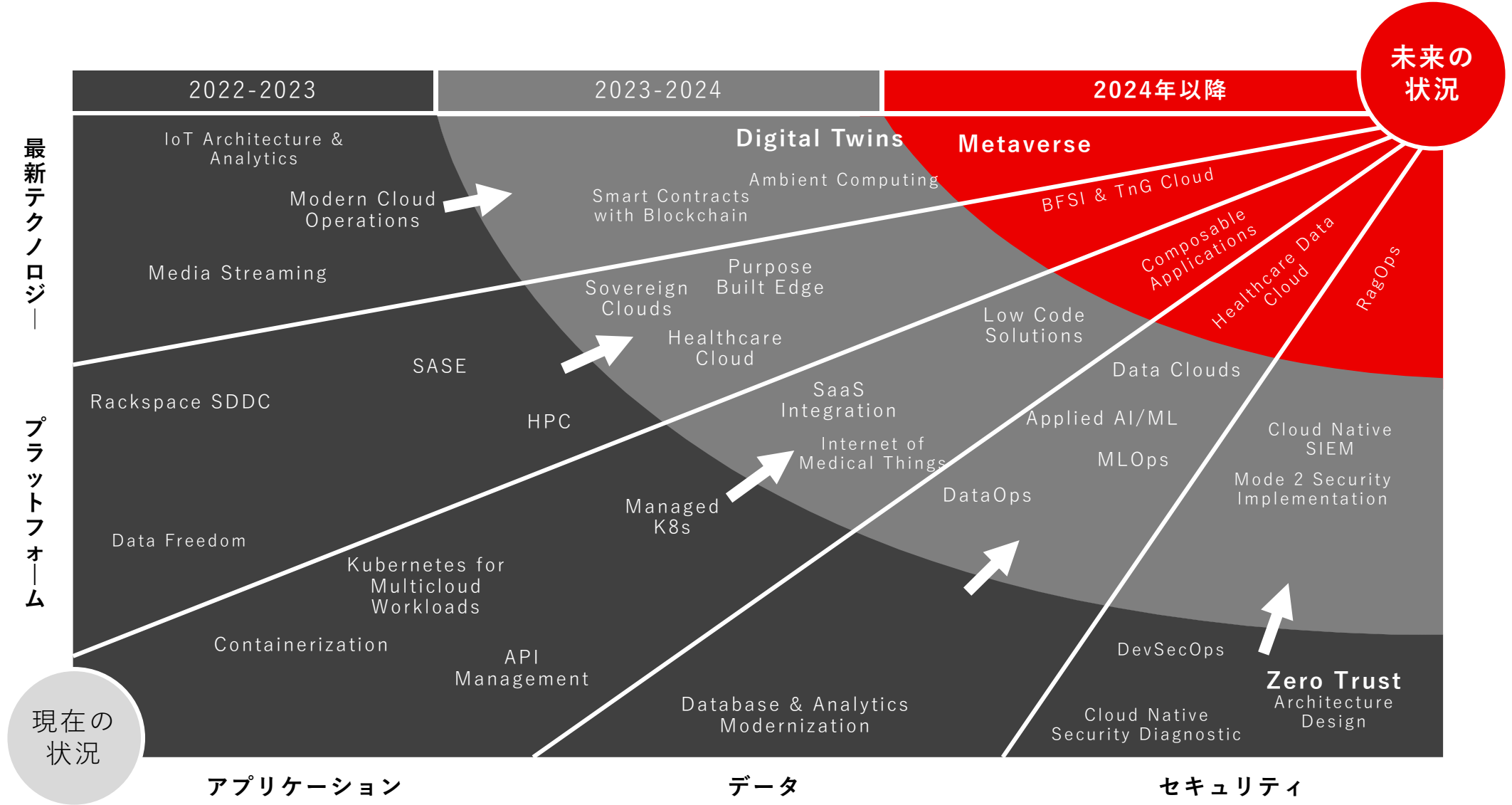
パブリック・クラウド関連支出の増加率  
(CAGR 2017-2022)

# 世界と日本のクラウド最新情勢

「クラウド・ジャーニー」 クラウド化が進展するとともにビジネスの機敏性も増す。



# クラウドの未来





企業がデジタルビジネスへと変貌を遂げる中、IT部門のトップ達は、クラウド技術を活用したソリューションでITを近代化し、変化の触媒のような存在となりつつあります。

## 01

新しいワークモデルやコラボレーションをサポート



## 03

マルチクラウドセキュリティのためのゼロトラスト・セキュリティ・アーキテクチャの使用



## 05

ストリームライン化されたワークフロー、オートメーション、倫理的なAIの活用



## 02

デジタルコミュニケーションをよりリアルに



## 04

業務のワークロードに対する近代化を推進



## 06

学びの文化を醸成

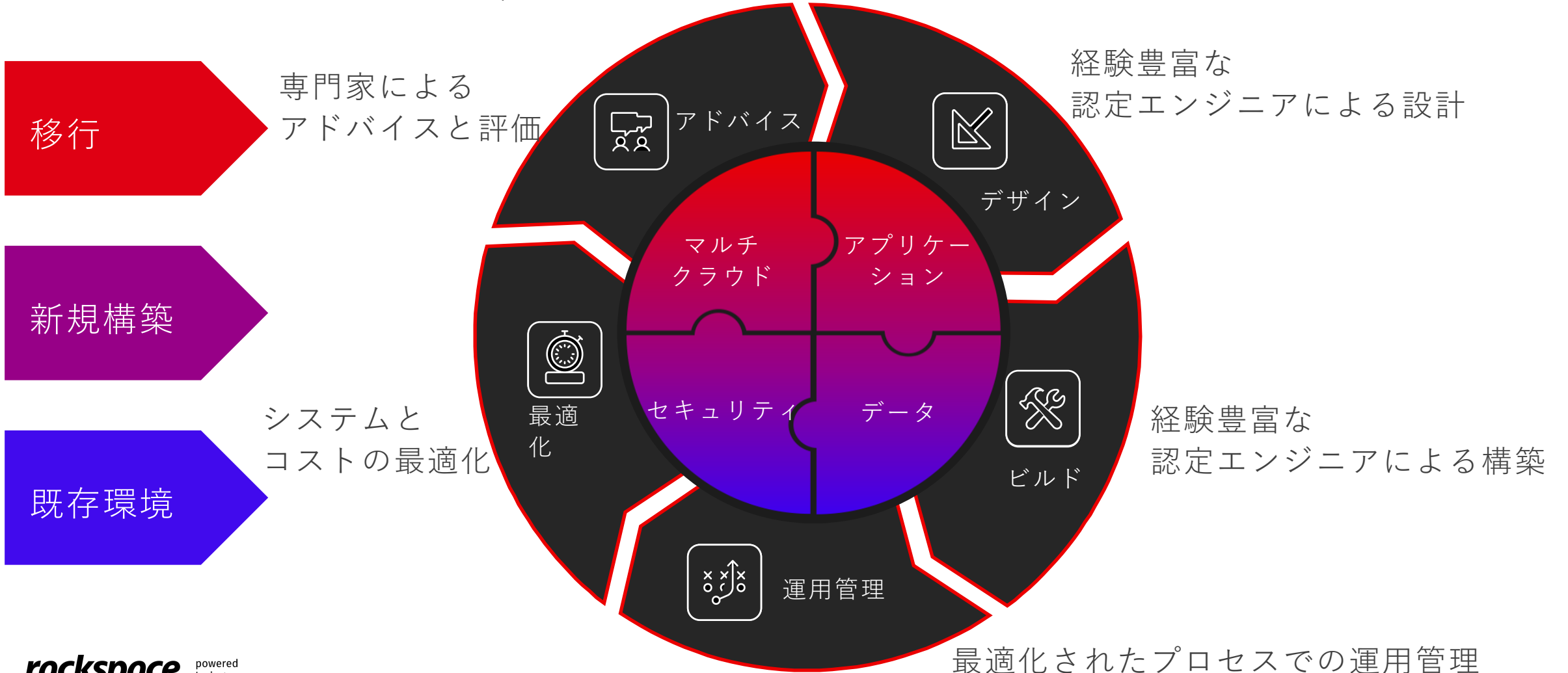


# 未来の動向を促進させる Rackspace
















クラウドそしてDXの未来に向けて

# 中長期的な視点でお客様にFanatical Experienceをご提供

CSM、TAMによるアドバイスとマンスリーアカウントレビュー（MAR）など、下記サイクルを継続的に行うことにより  
インフラ環境をお客様にとって最適にフィット、スリム化することによりパフォーマンスを向上  
中長期的な視点でお客様にFanatical Experienceをご提供



# お客様のあらゆる課題に対してご支援が可能

お客様の課題	弊社ご支援内容	サービス名
 <b>人材不足</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運用管理・監視サービスにてクラウドの適切な運用管理を提供</li> <li>24x365にて弊社認定エンジニアへのご質問が可能</li> </ul>	 
 <b>セキュリティ</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>セキュリティ監視サービスにてSIEMが対応し、AWSのベストプラクティスやCISに準拠しているかの確認が可能</li> </ul>	 
 <b>自動化/運用効率化</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>障害時の自動アラート通知や、事前の取り決めによる障害対応など、お客様の負荷を減らし、エンジニアが対応可能</li> </ul>	
 <b>クラウド基盤統制</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運用受け入れ前に弊社にてシステム構成確認を実施し、懸念事項となる項目があれば推奨構成をご提案し構築・修正</li> </ul>	
 <b>利用料金の増加</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>弊社のアカウントを利用し、運用管理・監視サービスをご契約いただくことでCSMおよびTAMが月次定例会を通じてコスト最適化</li> </ul>	
 <b>最新技術の習得</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運用管理・監視サービスにてクラウドの最新かつ適切な運用管理を提供</li> <li>設計構築サービスにて最新技術のご提案を継続的に実施</li> </ul>	 

※CSMはカスタマーサクセスマネージャー、TAMはテクニカルアカウントマネージャーの略



# グローバルでもクラウド最適化でDXを活速

デジタル技術は、あらゆる業界・業種の企業を変革してきました。これらの企業の中には、当初からクラウドベースでスタートした企業もありますが、私たちのお客様の多くは、デジタル・イミグレーションを成功させるべく変貌を遂げています。

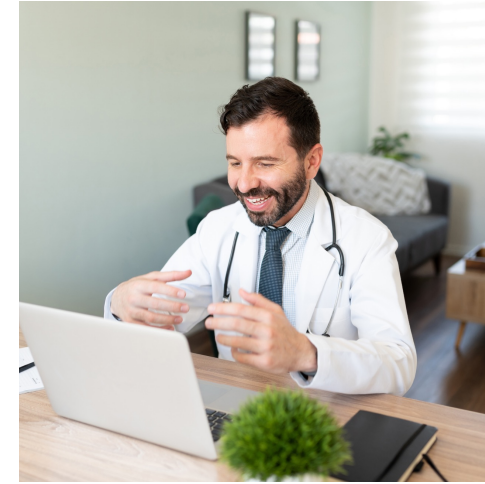
## 旅行

**Southwest Airlines**は、AWSにクラウドランディングゾーンを展開し、新しいアプリケーションを追加するための反復可能な開発プロセスを導入しました。



## ホスピタリティ

パブリッククラウドへの移行において、**Wyndham Hotels and Resorts**はRackspace Technologyの協力のもと、AWSでのコストを最適化することに成功しました。



## ファイナンス

**Precia**では、Rackspace Technologyのサポートにより、データセンターを離れてから業務効率が10倍となっています。



## 物流

**Innovyzer**はクラウド化することで、提供するサービスの付加価値を高め、約15%のコスト削減を実現しました。



## ヘルスケア

**Medecision**は、Rackspace Optimizer+によるコスト最適化で、すべてのプラットフォームでコストをコントロールする全体的なアプローチの一環として、50万ドル以上を節約しました。



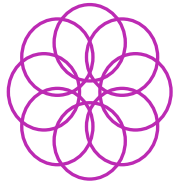


# Rackspaceの企業理念: Fanatical Experience (情熱的体験)

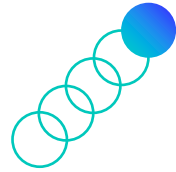
Rackspaceは常に新しいテクノロジーを開発して探求し、重要なテクノロジーを習得しています。

あらゆる段階でお客様と協力してビジネスの成果を達成できるよう支援します。

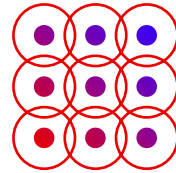
お客様の成功が我々に取っての成功であり、お客様にFanatical Experienceをもたらすことにつながります。



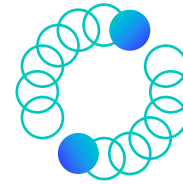
ハイパフォーマンス



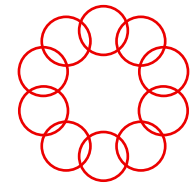
顧客優先



専門性



俊敏性



ワンチーム



# 導入事例紹介

株式会社ナビック様



# 【事例】株式会社クリーク・アンド・リバー社様

強固なセキュリティを担保した AWS 環境構築・運用

## 課題

- DXを推進する部署の大型クライアントは、先方より新プロジェクトに関わる全ての IT ネットワークの運用を管理してほしい
- クライアント企業に「セキュリティを担保したい」というニーズが強くある
- 既に『AWS (Amazon Web Services) 』を使用していた

## 課題

- 高いセキュリティ要件を満たすため、既存の AWS 環境で作業するより、求める条件で新たに作り直した方が効率的・効果的であるため、テクニカルオンボーディングマネージャー (TOM) を中心に新規構築を推奨し、実現した
- Fanatical Experience (情熱的体験) の象徴ともいえる、カスタマーサクセスマネージャー (CSM)、テクニカルアカウントマネージャー (TAM) を中心したService Block の "Manage & Operate" に加えた
- AWS のセキュリティサービスをベースとした "Cloud Native Security" を組み合わせることとし、サーバーへの侵入やウィルスへの感染リスクを検知して未然に防ぐ
- "Deep Security" を加え、堅固なセキュリティ担保を実現した

## 効果

- ベストプラクティスと比較してアラートが発せられた際、Rackspace のエンジニアが是正措置を取る体制を整えました。
- より強固にセキュリティを確保する



“デリバリーまでスピード感を持って対応してもらえたのが良かった。困った時にここから先は我々の範囲ではありません、ということはなく、真摯に相談に乗って柔軟に対応いただけている。”



# おすすめ情報

AWS活用にお悩みのお客様へ

# コスト最適化診断 無料キャンペーン



まずはお気軽にお問い合わせください!

[www.cloudpack.jp](http://www.cloudpack.jp)

Rackspace × cloudpack

**rackpack**<sup>TM</sup>



クラウドセキュリティの最前線を学べる

**iret** Cloud Security Summit 2023

# クラウドセキュリティ サミット 2023

2023年6月15日(木)  
📍 KDDI DIGITAL GATE 虎ノ門

登録  
受付中

無料登録する >

iret Cloud Security Summit 2023

クラウドセキュリティの課題と対策を  
最前線のブランドからリアルに学べる1日

<https://cloudpack.jp>



さあ、  
一緒に  
クラウドの  
向こう側へ

[www.iret.co.jp](http://www.iret.co.jp)  
[www.rackspace.jp](http://www.rackspace.jp)

***rackspace***  
*technology*<sup>TM</sup>

powered  
by iret



# ChatGPTに聞いてみた...



デジタルトランスフォーメーション（DX）の取り組みが日本企業で遅れている理由は多岐にわたります。以下、主な原因をいくつか挙げてみましょう。



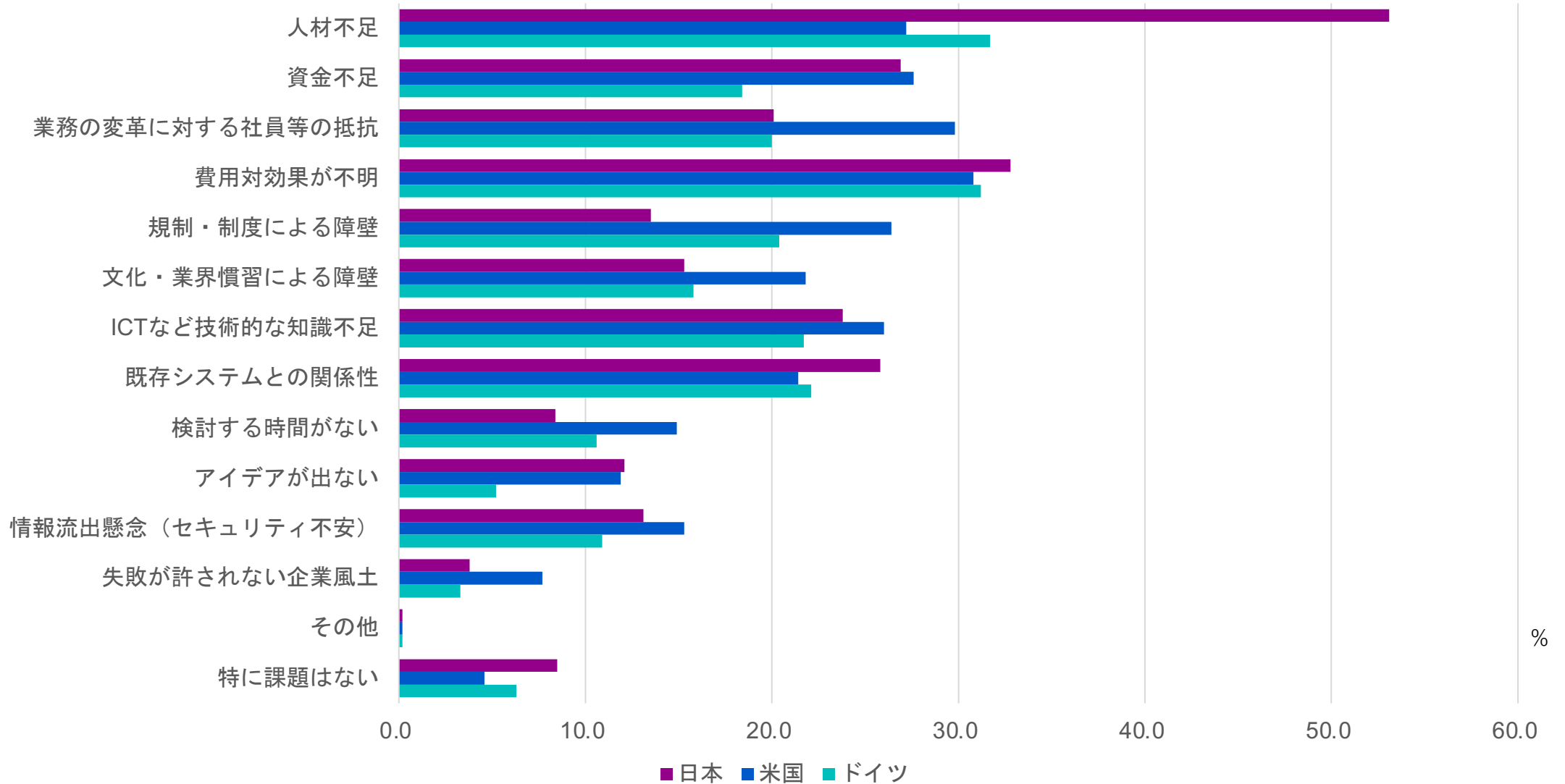
1. **文化的な要素:** 日本企業は伝統的に内部開発に重きを置き、自社のシステムやソリューションを独自に開発する傾向があります。これは一部の企業で非常に成功しているとはいえ、結果として新しい技術やソリューションへの適応速度を遅らせていると言えます。
2. **リスク回避:** 日本企業は一般的にリスクを避ける傾向があり、新しい技術やアプローチを取り入れるのに躊躇することが多いです。デジタルトランスフォーメーションは大きな変化を伴うため、それがリスクとなると捉えられ、導入が遅れる場合があります。
3. **人材不足:** ITやデジタルスキルを持つ人材が不足していることも、DXの導入が遅れる一因です。このため、企業は自社内でデジタルトランスフォーメーションを推進するための適切なスキルと知識を持つ人材を見つけるのが難しい場合があります。
4. **既存システムへの依存:** 日本企業では長年にわたり稼働してきたレガシーシステムへの依存が深いです。これらのシステムをデジタル化するのはコストも時間もかかり、結果としてDXの導入が遅れることにつながっています。
5. **リーダーシップの欠如:** DXは企業全体の戦略と深く結びついており、トップダウンのアプローチが必要です。しかし、日本の組織においては、DXの重要性を理解し、それを推進するリーダーシップが不足していることがあります。

以上の理由から、日本企業のデジタルトランスフォーメーションの導入が遅れていると考えられます。しかしながら、これらの問題を認識し対策を講じることで、日本企業もDXを成功させることが可能です。

Regenerate response

# 日本のDXの推進の今

## デジタル・トランスフォーメーションを進める際の課題

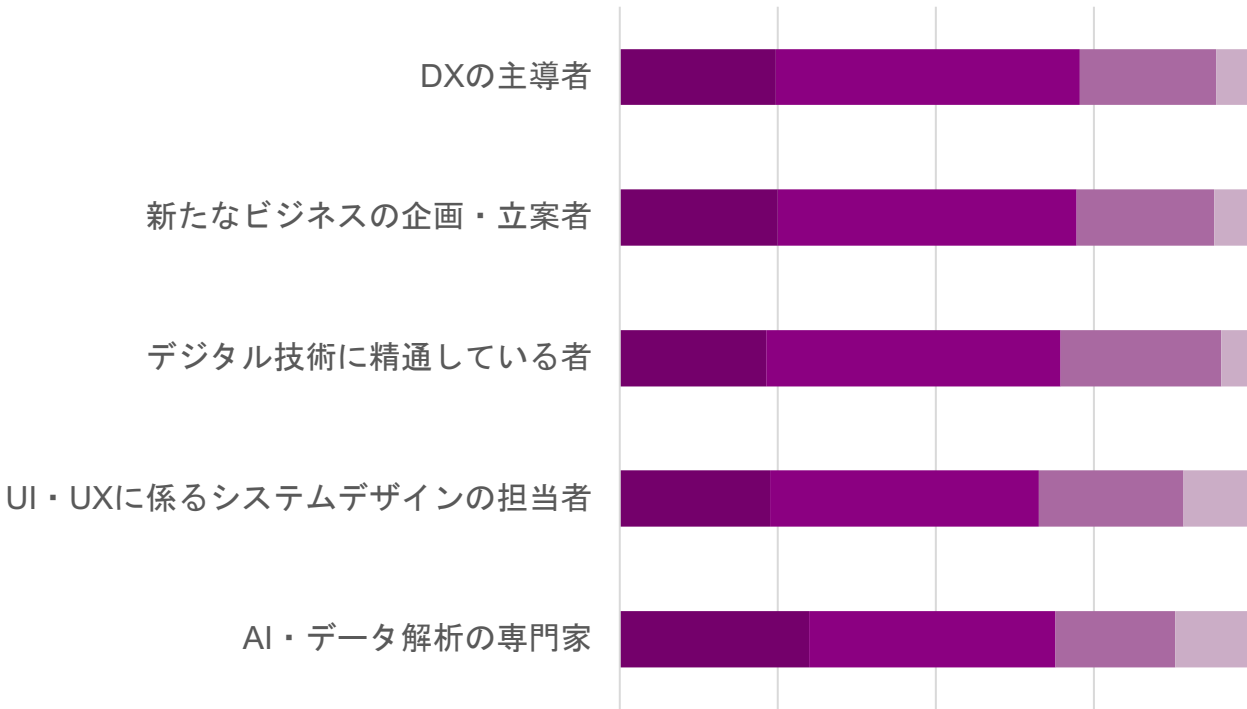


# DXの推進：不足している人材

日本

0.0 25.0 50.0 75.0 100.0 %

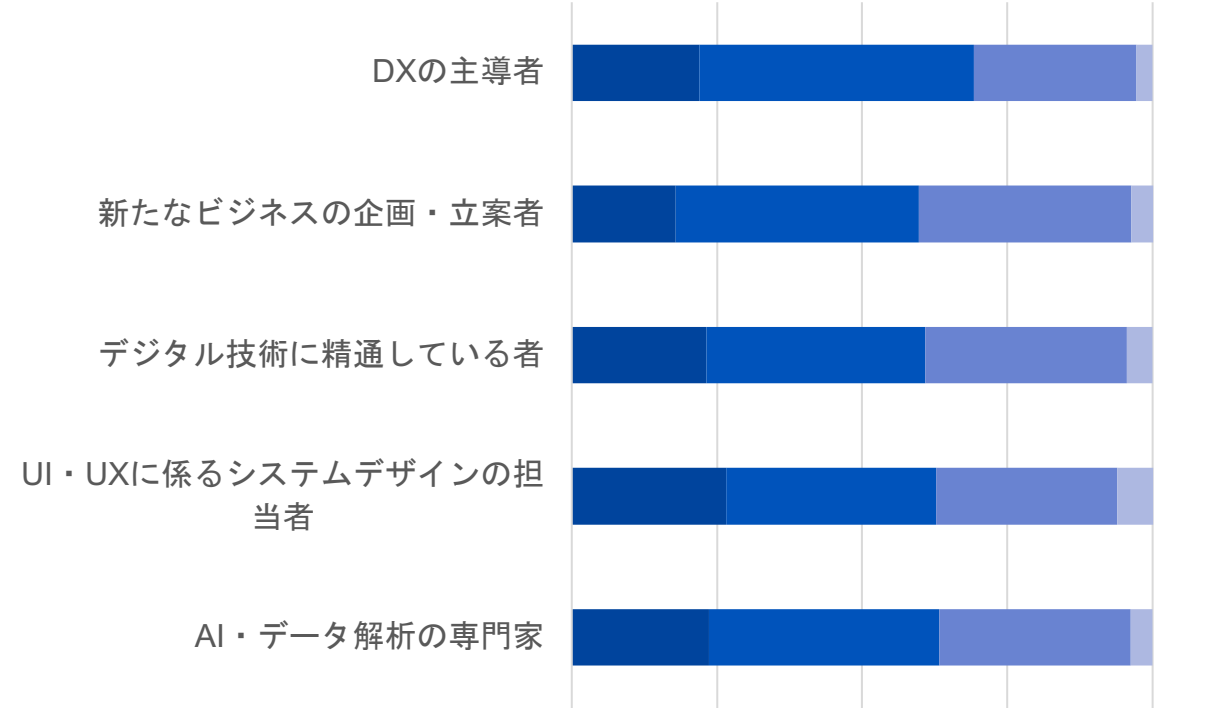
%



■大いに不足している ■多少不足している ■不足していない ■そのような人材は必要ない

米国

0.0 25.0 50.0 75.0 100 %



■大いに不足している ■多少不足している ■不足していない ■そのような人材は必要ない

# デジタル人材の確保・育成に向けた取組

